

児玉郡上里町吉祥院(きちじょういん)所在 宝篋印塔

吉祥院/武蔵武士である阿保氏の氏寺という





吉祥院

所在地 上里町大字大御堂

吉祥院は、京都仁和寺の末、真言宗智山派で阿保山真光寺吉祥院と呼ばれる。

当寺は、大同元年に武蔵介阿保人上が開基となり沙門任覚を開山として創建されたものであるといわれる。

治承四年安保刑部丞実光が再興し、沙門真隆を招き、寺領三百石を付して中興の開山とした。

嘉禄三年には、上州小野氏が洪鐘三箇を寄進している。

その後延元二年には、児玉・丹阿党・北畠顕家らと足利義詮の阿保ヶ原合戦で伽藍を焼失、暦応五年になり快秀和尚の代に阿保肥前守直実らにより復興された。

永録元年、阿保氏北条氏の合戦でまたも焼失、わずかな草庵を結び寺名を伝え、慶長一八年には関八州の真言山伏の触頭となったのである。

寛永一九年幕府より三〇石の御朱印を賜り、諸堂を再建したが、宝暦元年、文化元年と再々火災にあい、現在の堂は文化一〇年に再建されたものである。

当寺は阿保氏の氏寺で、中でも中興の阿保実光は、武蔵七党の内丹党に属し、新里綱房の次男で安保に住した大豪族で、早くから頼朝に仕え、一の谷の合戦に範頼に従い、奥州の泰衡征伐にも参加し軍功を立て、承久三年宇治橋の合戦で討死した武蔵武士である。

ここ大御堂という地名も阿弥陀様が遠近の信仰が厚く、堂が壮嚴であったことに由来するといわれる。

児玉三三霊場めぐりの内の二四番霊場として親しまれ、阿弥陀池跡の梅苑は人々を楽しませてくれる。

元来、境内に窯があり寺で使用する雑器類を焼いていたものといわれ、その窯を復元したものが吉祥院焼で、古伊賀を模したその作風は味わいの深いものである。

昭和六十一年三月

上里町役場

正面が本堂/1813年再建という/左手は宝篋印塔



これが吉祥院の宝篋印塔











珍しい墓股



珍しい礎石







宮
あ
ぢ
ぢ

鐘樓





六地藏尊



さまざまな石造物



珍しい燈籠





この高まりは古墳か



